

# 「男女共同参画社会」に関する アンケート 集計結果

令和元(2019)年度

調査時期:令和元年8月

寒 川 町

## 基本情報

調査対象者：寒川町在住の満20才以上の男女1,000人

抽出方法：無作為抽出（ただし男女同数）

調査方法：郵送による配布、郵送による回収

調査期間：令和元年8月20日～9月17日

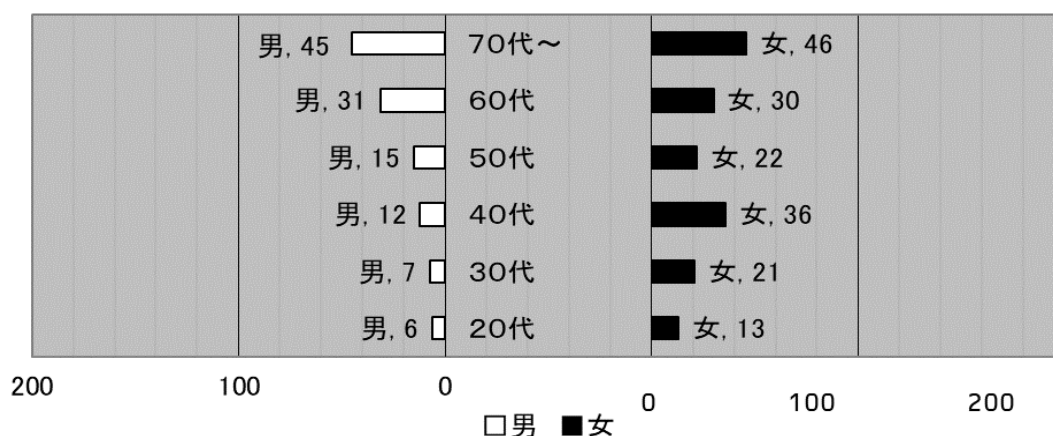
回答していただいた調査票：285通 回答率 28.5%

問1 あなたの性別は。

問2 あなたの年齢は。

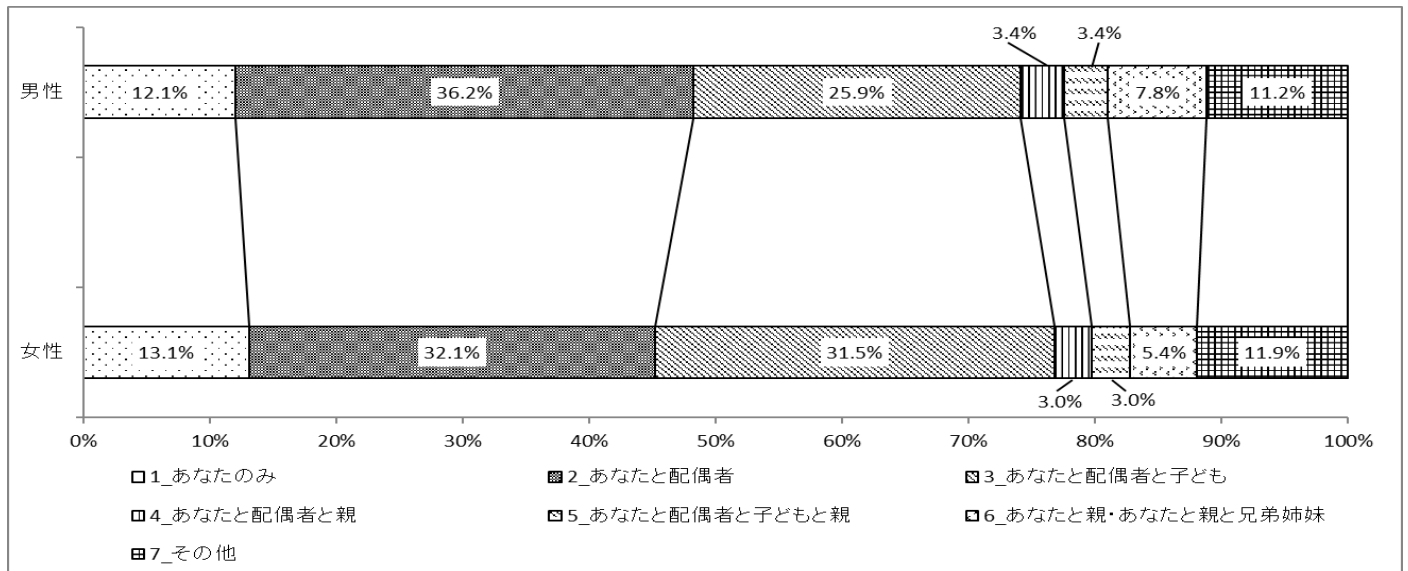
性別・年代	男	女	選べない	構成比		
20代	6	13	0	6.7%		
30代	7	21	1	10.2%		
40代	12	36	0	16.8%		
50代	15	22	0	13.0%		
60代	31	30	0	21.4%		
70代～	45	46	0	31.9%		
小計	116	168	1	40.7%	58.9%	0.4%
合計	285			100%		

年代別男女



回答者の58.9%が女性であり、町人口構成比と比べて女性の方がやや多く、男女ともに60代、70歳以上の回答が多くなっている。

### 問3 現在の家族構成は。

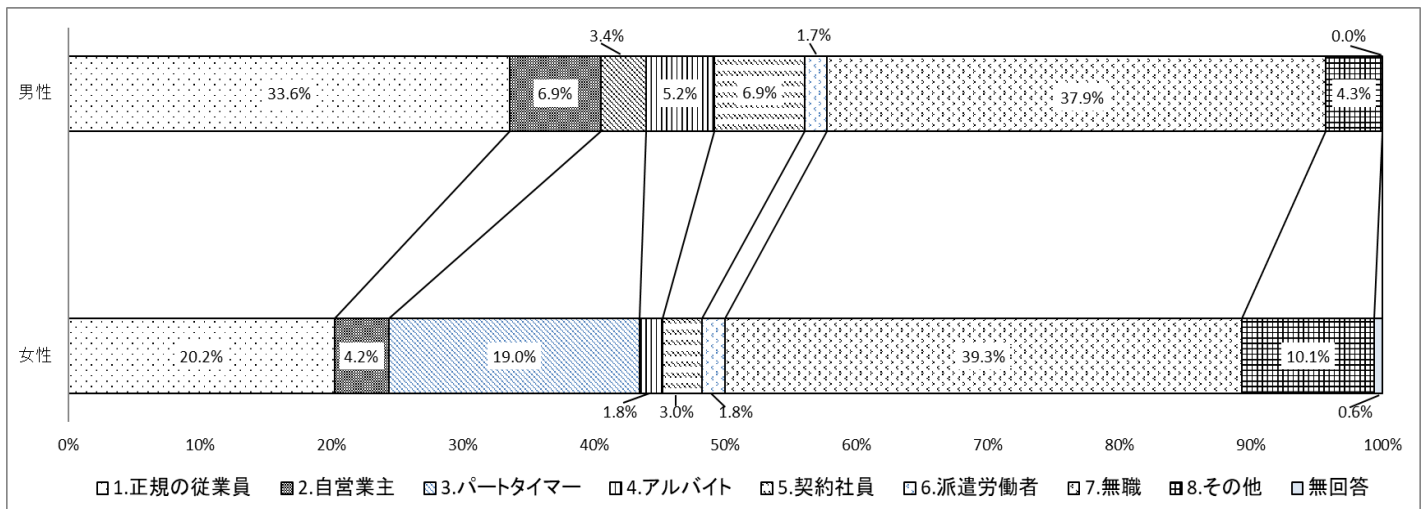


#### 問3家族構成

	男性	女性
1_あなたのみ	12.1%	13.1%
2_あなたと配偶者	36.2%	32.1%
3_あなたと配偶者と子ども	25.9%	31.5%
4_あなたと配偶者と親	3.4%	3.0%
5_あなたと配偶者と子どもと親	3.4%	3.0%
6_あなたと親・あなたと親と兄弟姉妹	7.8%	5.4%
7_その他	11.2%	11.9%

家族構成については、男女ともに「あなたと配偶者」の割合が最も高くなっている。

### 問4 あなたの就業形態を教えてください。(1つ選択)

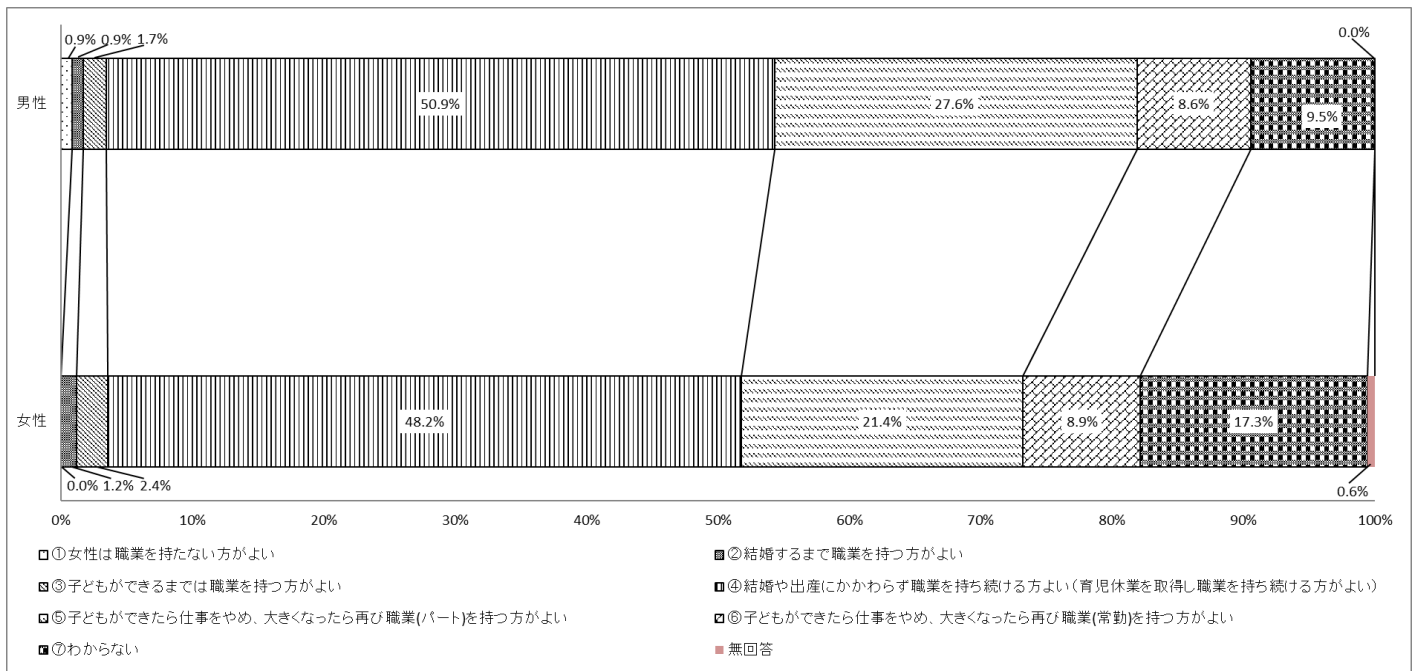


#### 問4就業形態

	男性	女性
1. 正規の従業員	33.6%	20.2%
2. 自営業主	6.9%	4.2%
3. パートタイマー	3.4%	19.0%
4. アルバイト	5.2%	1.8%
5. 契約社員	6.9%	3.0%
6. 派遣労働者	1.7%	1.8%
7. 無職	37.9%	39.3%
8. その他 (1~7以外)	4.3%	10.1%
無回答	0.0%	0.6%

就業形態について、正規の従業員の割合は男性が女性の約1.6倍。働いている女性の内訳では、「正規従業員」の割合が最も高く、前回調査より4.8ポイント増加している。

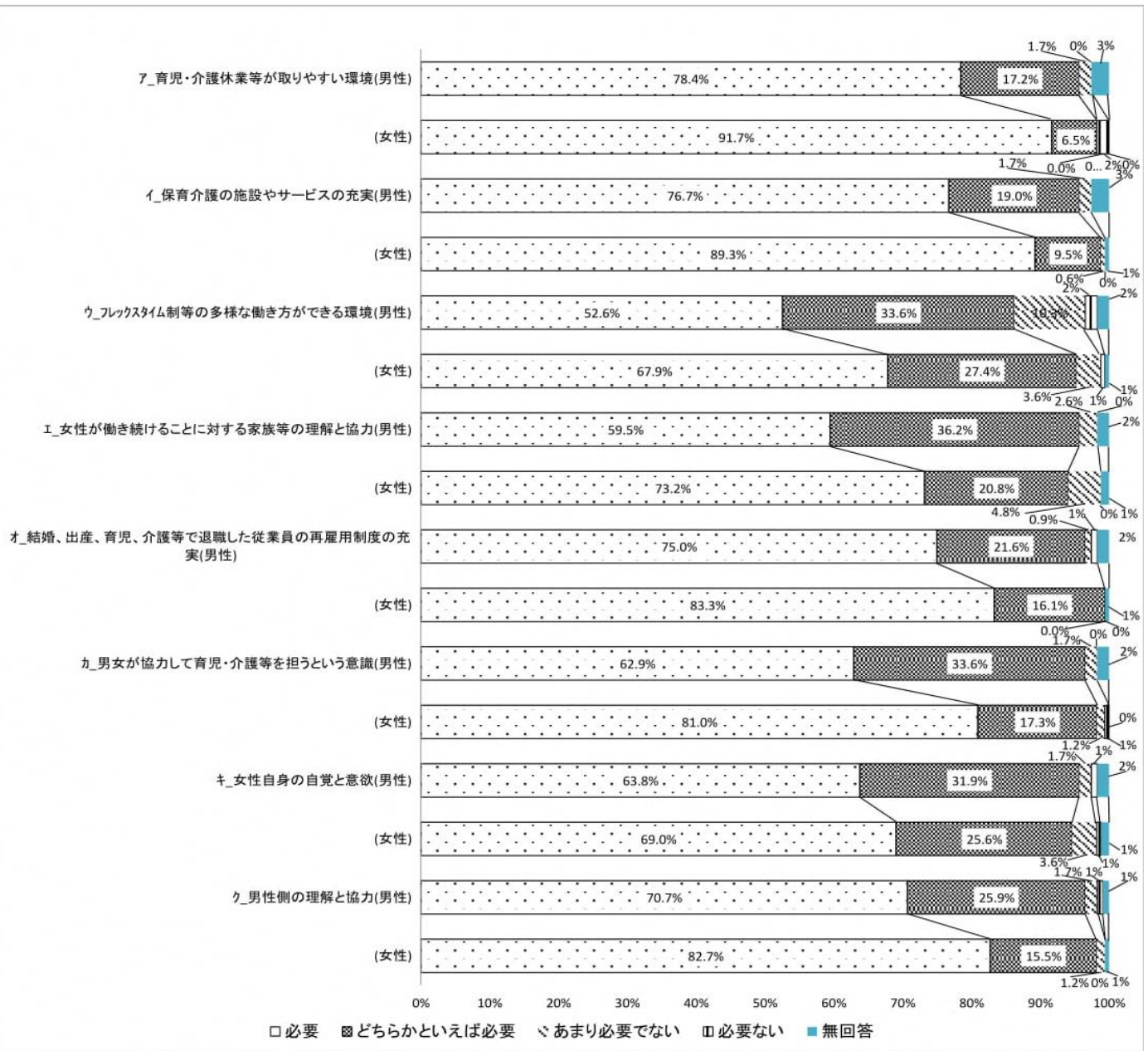
問5 女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。(1つ選択)



問5女性が職業を持つことについて	男性	女性
① 女性は職業を持たない方がよい	0.9%	0.0%
② 結婚するまで職業を持つ方がよい	0.9%	1.2%
③ 子どもができるまでは職業を持つ方がよい	1.7%	2.4%
④ 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方よい (育児休業を取得し職業を持ち続ける方がよい)	50.9%	48.2%
⑤ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(パート)を持つ方がよい	27.6%	21.4%
⑥ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(常勤)を持つ方がよい	8.6%	8.9%
⑦ わからない	9.5%	17.3%
無回答	0.0%	0.6%

女性が職業を持つことについて、男女ともに「④結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい (育児休業等を取得し職業を持ち続けるほうがよい)」の割合が最も高くなっている。特に「子供ができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という考えはパート・常勤を合わせると男性36.2%、女性30.3%となり、前回調査の男性37.5%、女性44%と比較すると、男性の変化は少なく、女性は約14ポイント減少している。また、女性の「①女性は職業を持たない方がよい」の割合は0%となった。これらのことから、女性の就業を肯定的に捉える傾向がうかがえる。

問6 女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(各項目1つ選択)

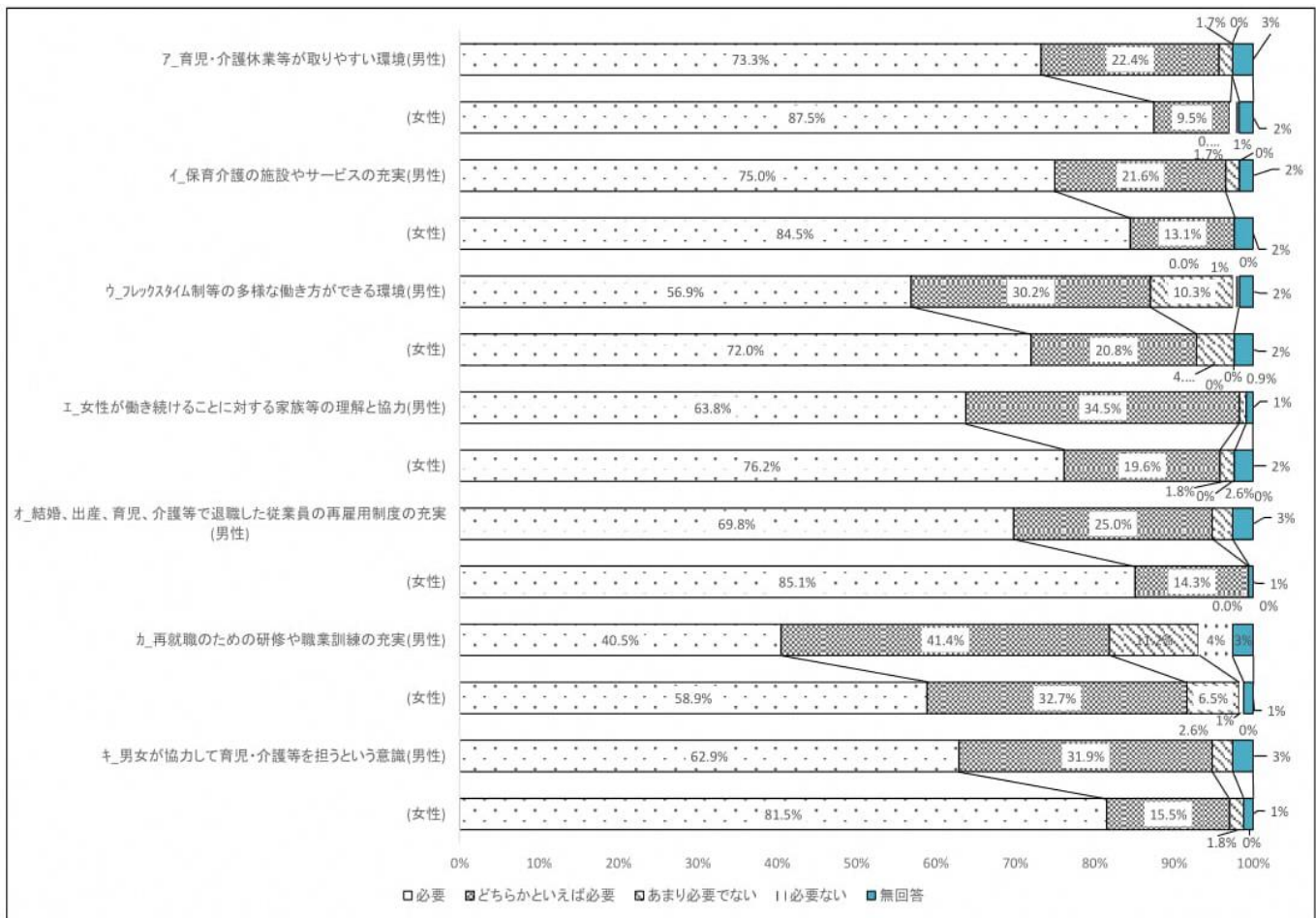


問6女性が働き続けるために必要なこと	必要	どちらかといえば必要	あまり必要でない	必要ない	無回答
7_育児・介護休業等が取りやすい環境(男性)	78.4%	17.2%	1.7%	0%	3%
(女性)	91.7%	6.5%	0.0%	2%	0%
1_保育介護の施設やサービスの充実(男性)	76.7%	19.0%	1.7%	0%	3%
(女性)	89.3%	9.5%	0.6%	0%	1%
4_フレックスタイム制等の多様な働き方ができる環境(男性)	52.6%	33.6%	10.3%	2%	2%
(女性)	67.9%	27.4%	3.6%	1%	1%
2_女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力(男性)	59.5%	36.2%	2.6%	0%	2%
(女性)	73.2%	20.8%	4.8%	0%	1%
3_結婚、出産、育児、介護等で退職した従業員の再雇用制度の充実(男性)	75.0%	21.6%	0.9%	1%	2%
(女性)	83.3%	16.1%	0.0%	0%	1%
5_男女が協力して育児・介護等を担うという意識(男性)	62.9%	33.6%	1.7%	0%	2%
(女性)	81.0%	17.3%	1.2%	1%	0%
6_女性自身の自覚と意欲(男性)	63.8%	31.9%	1.7%	1%	2%
(女性)	69.0%	25.6%	3.6%	1%	1%
7_男性側の理解と協力(男性)	70.7%	25.9%	1.7%	1%	1%
(女性)	82.7%	15.5%	1.2%	0%	1%

女性が働き続けるために必要なことについて、男女ともに「㉗育児・介護休業等が取りやすい環境の整備」、「㉑保育・介護の施設やサービスの充実」、「㉔結婚、出産、育児、介護等で退職した従業員の再雇用制度の充実」、「㉒男性側の理解と協力」が必要と考える割合が高くなっている。女性が働き続けるためには、環境の整備、両立支援のためのサービスの充実、再雇用制度の充実に加え男性側の理解・協力といった意識的な要素も必要であると思っている割合が高いことがうかがえる。



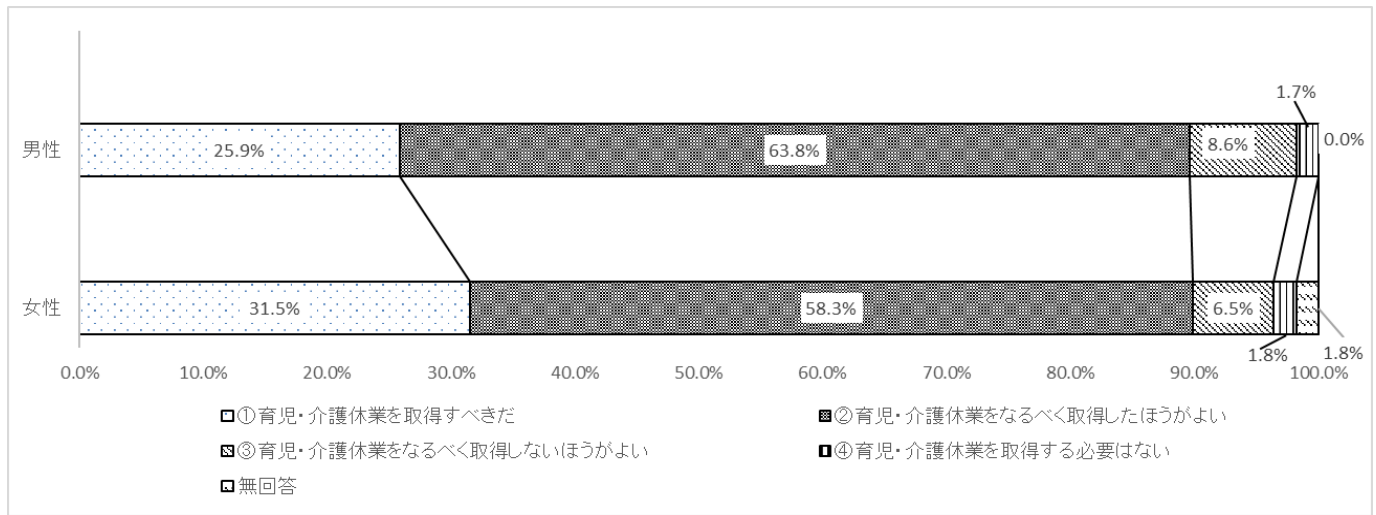
問7 女性が再就職しやすくするためにどのようなこと必要だと思いますか。(各項目1つ選択)



問7女性が再就職しやすくするために必要なこと	必要	どちらかといえば必要	あまり必要でない	必要ない	無回答
ア_育児・介護休業等が取りやすい環境(男性)	73.3%	22.4%	1.7%	0%	3%
(女性)	87.5%	9.5%	0.0%	1%	2%
イ_保育介護の施設やサービスの充実(男性)	75.0%	21.6%	1.7%	0%	2%
(女性)	84.5%	13.1%	0.0%	0%	2%
ウ_フレックスタイム制等の多様な働き方ができる環境(男性)	56.9%	30.2%	10.3%	1%	2%
(女性)	72.0%	20.8%	4.8%	0%	2%
エ_女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力(男性)	63.8%	34.5%	0.9%	0%	1%
(女性)	76.2%	19.6%	1.8%	0%	2%
オ_結婚、出産、育児、介護等で退職した従業員の再雇用制度の充実(男性)	69.8%	25.0%	2.6%	0%	3%
(女性)	85.1%	14.3%	0.0%	0%	1%
カ_再就職のための研修や職業訓練の充実(男性)	40.5%	41.4%	11.2%	4%	3%
(女性)	58.9%	32.7%	6.5%	1%	1%
キ_男女が協力して育児・介護等を担うという意識(男性)	62.9%	31.9%	2.6%	0%	3%
(女性)	81.5%	15.5%	1.8%	0%	1%

女性の再就職に必要なことについて、男女ともに「ア」育児・介護休業等が取りやすい環境、「イ」保育・介護の施設やサービスの充実、「オ」結婚、出産、育児、介護等で退職した従業員の再雇用制度の充実が必要と回答している割合が高くなっている。また、「キ」男女が協力して協力して育児・介護を担う」という意識について必要と回答した割合が男性62.9%に対し女性は81.5%という結果から男女間の意識に差が生じている。

## 問8 男性の育児・介護休暇について(1つ選択)

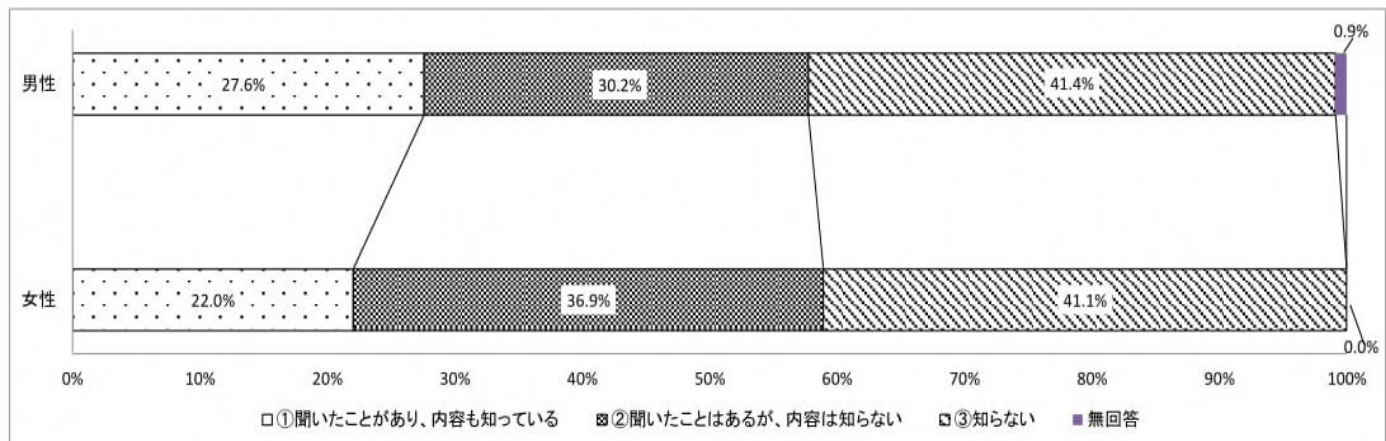


### 問8「男性の育児・介護休業を取得」について

	男性	女性
①育児・介護休業を取得すべきだ	25.9%	31.5%
②育児・介護休業をなるべく取得したほうがよい	63.8%	58.3%
③育児・介護休業をなるべく取得しないほうがよい	8.6%	6.5%
④育児・介護休業を取得する必要はない	1.7%	1.8%
無回答	0.0%	1.8%

男性の育児・介護休業の取得について、男女ともに「②育児・介護休業をなるべく取得したほうがよい」が最も高く、次に「①育児・介護休業を取得すべきだ」となっている。この2つの回答を合わせると全体の90%となることから、男性の育児・介護休業の取得について意識の高いことがうかがえる。

## 問9 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」について知っていますか。(1つ選択)

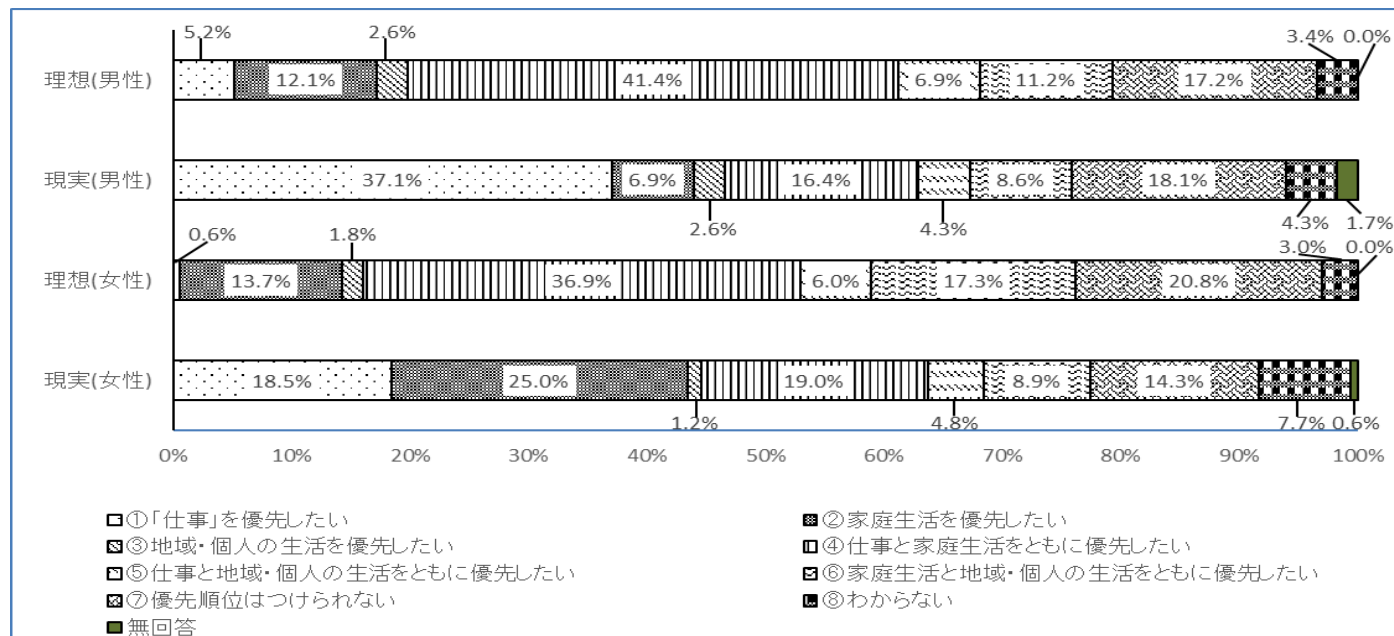


### 問9「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」について知っていますか

	男性	女性
①聞いたことがあり、内容も知っている	27.6%	22.0%
②聞いたことはあるが、内容は知らない	30.2%	36.9%
③知らない	41.4%	41.1%
無回答	0.9%	0.0%

「仕事と生活の調査(ワーク・ライフ・バランス)」についての認知度は、男女ともに非常に低く、言葉の周知についてもまだ十分とは言えないが、女性の「①聞いたことがあり、内容も知っている」については前回調査と比較して5.3%ポイント増加しており、少しずつ浸透してきていることがうかがえる。

問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方の理想と現実について(それぞれ1つ選択)



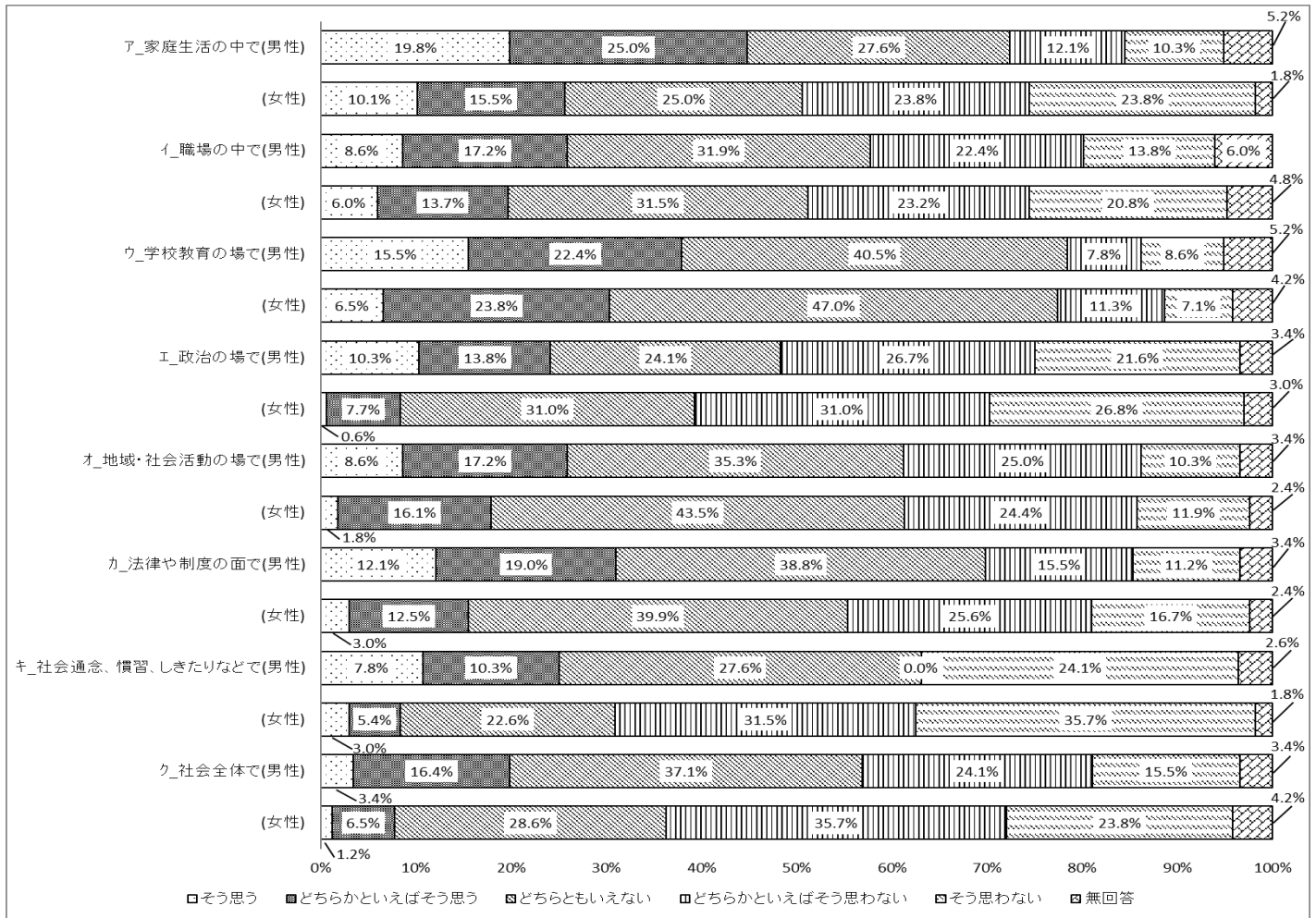
問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方の理想と現実

	理想(男性)	現実(男性)	理想(女性)	現実(女性)
①「仕事」を優先したい	5.2%	37.1%	0.6%	18.5%
②家庭生活を優先したい	12.1%	6.9%	13.7%	25.0%
③地域・個人の生活を優先したい	2.6%	2.6%	1.8%	1.2%
④仕事と家庭生活をともに優先したい	41.4%	16.4%	36.9%	19.0%
⑤仕事と地域・個人の生活をともに優先したい	6.9%	4.3%	6.0%	4.8%
⑥家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい	11.2%	8.6%	17.3%	8.9%
⑦優先順位はつけられない	17.2%	18.1%	20.8%	14.3%
⑧わからない	3.4%	4.3%	3.0%	7.7%
無回答	0.0%	1.7%	0.0%	0.6%

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方の理想と現実について、男女ともに理想は「④仕事と家庭生活とともに優先したい」が最も高くなっている。現実では男性は「①仕事を優先したい」、女性は「②家庭生活を優先したい」がそれぞれ高くなっており、理想と現実の間には乖離が生じている。



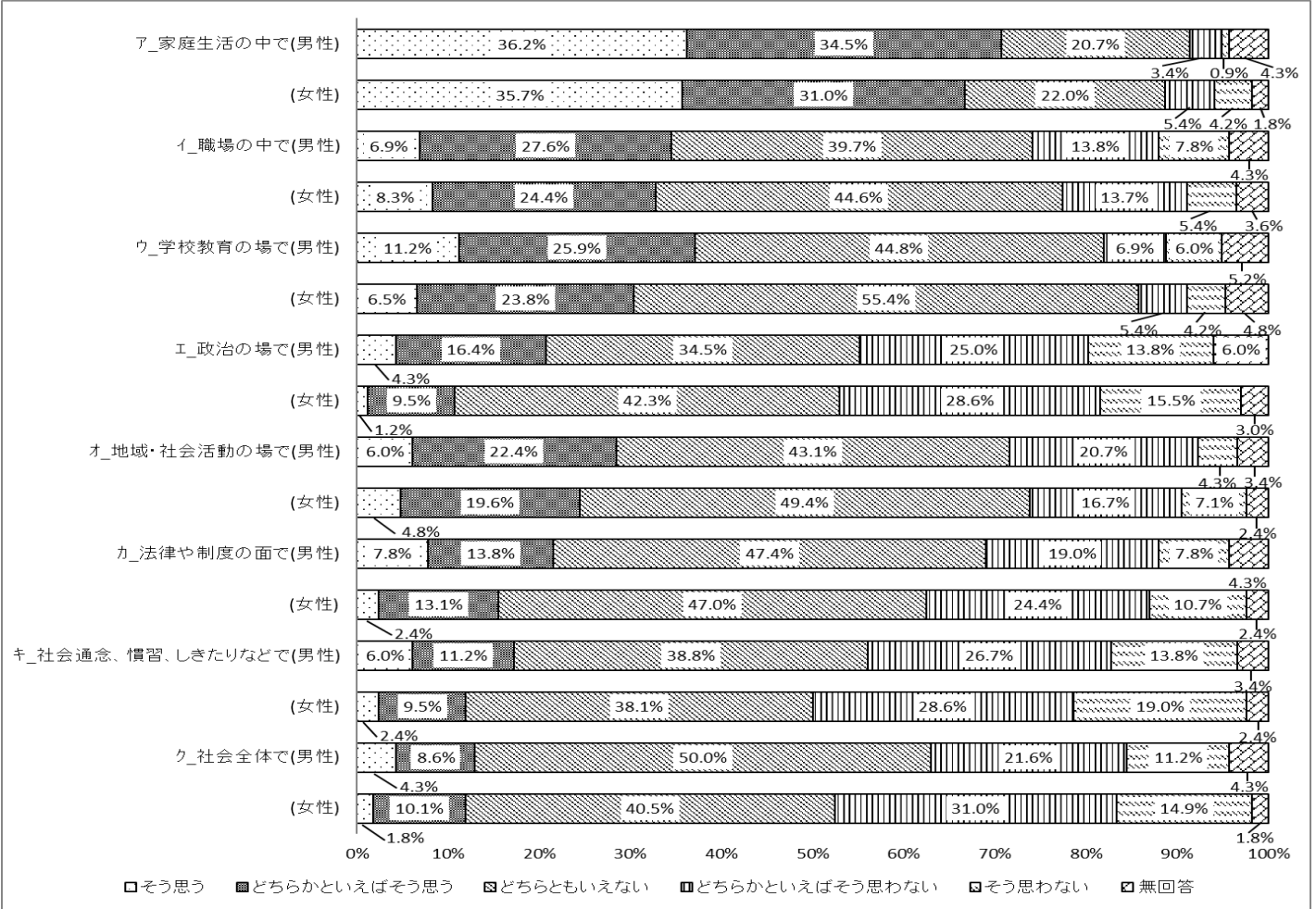
問11 男女の平等感について次の場面で男女が平等になっていると思いますか。(各項目1つ選択)



問11次の場面で男女が平等になっていると思いますか	問11次の場面で男女が平等になっていると思いますか					無回答
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
ア_家庭生活の中で(男性)	19.8%	25.0%	27.6%	12.1%	10.3%	5.2%
(女性)	10.1%	15.5%	25.0%	23.8%	23.8%	1.8%
イ_職場の中で(男性)	8.6%	17.2%	31.9%	22.4%	13.8%	6.0%
(女性)	6.0%	13.7%	31.5%	23.2%	20.8%	4.8%
ウ_学校教育の場で(男性)	15.5%	22.4%	40.5%	7.8%	8.6%	5.2%
(女性)	6.5%	23.8%	47.0%	11.3%	7.1%	4.2%
エ_政治の場で(男性)	10.3%	13.8%	24.1%	26.7%	21.6%	3.4%
(女性)	0.6%	7.7%	31.0%	31.0%	26.8%	3.0%
オ_地域・社会活動の場で(男性)	8.6%	17.2%	35.3%	25.0%	10.3%	3.4%
(女性)	1.8%	16.1%	43.5%	24.4%	11.9%	2.4%
カ_法律や制度の面で(男性)	12.1%	19.0%	38.8%	15.5%	11.2%	3.4%
(女性)	3.0%	12.5%	39.9%	25.6%	16.7%	2.4%
キ_社会通念、慣習、しきたりなどで(男性)	7.8%	10.3%	27.6%	0.0%	24.1%	2.6%
(女性)	3.0%	5.4%	22.6%	31.5%	35.7%	1.8%
ク_社会全体で(男性)	3.0%	16.4%	37.1%	24.1%	15.5%	3.4%
(女性)	1.2%	6.5%	28.6%	35.7%	23.8%	4.2%

男女の平等感について、男女ともに「㊥社会通念、慣習、しきたりなどで」と「㊦政治の場で」において男女が平等になっていると思わないの割合が高くなっている。特に女性は、全体を通じて男女平等になっていると思わないの割合が男性より高くなっているが、前回調査と比較すると、減少している。

問12 女性の能力は十分に活用されているか(各項目1つ選択)

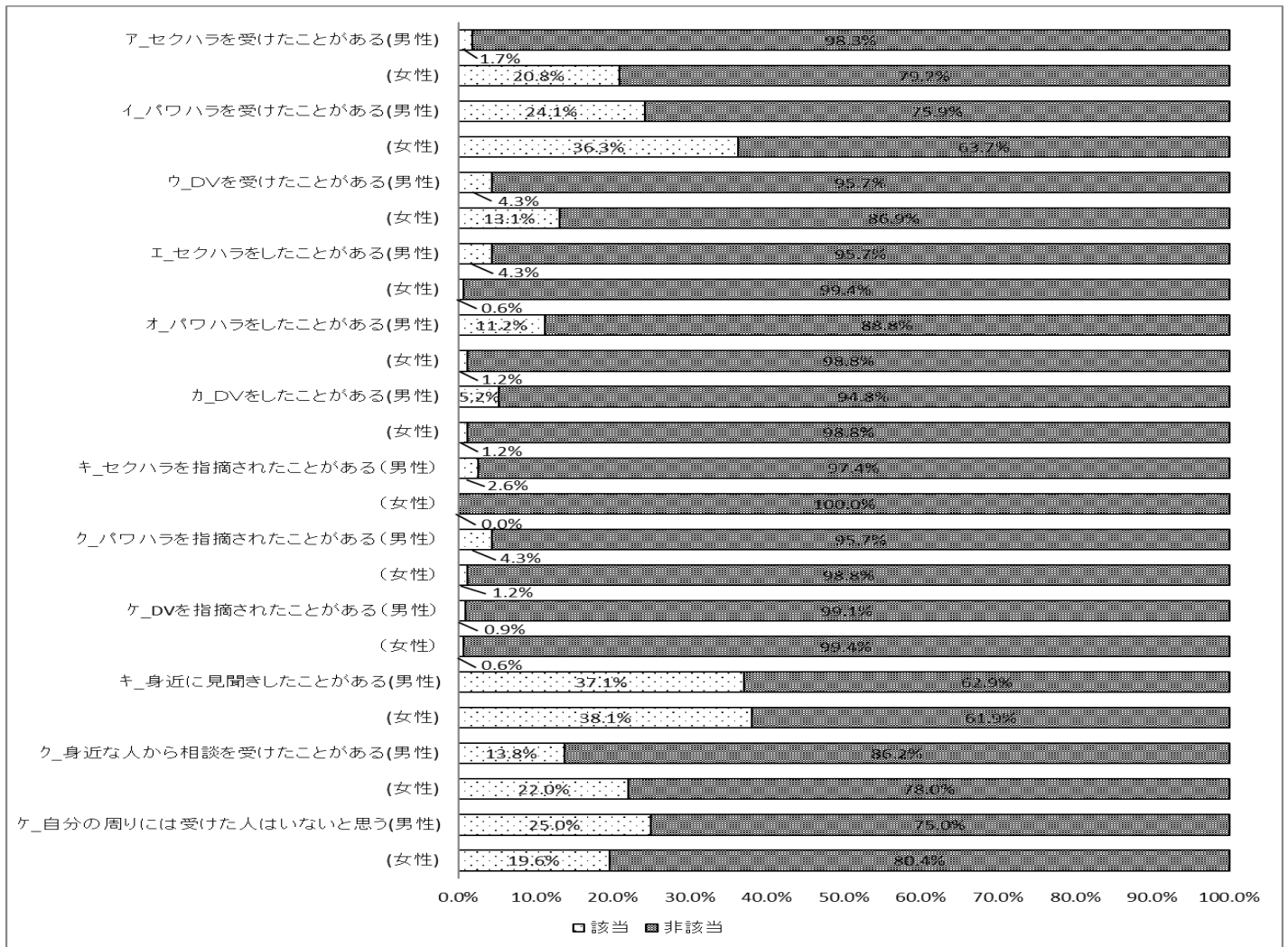


問12女性の能力は十分に活用されているか

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答
ア_家庭生活の中で(男性)	36.2%	34.5%	20.7%	3.4%	0.9%	4.3%
(女性)	35.7%	31.0%	22.0%	5.4%	4.2%	1.8%
イ_職場の中で(男性)	6.9%	27.6%	39.7%	13.8%	7.8%	4.3%
(女性)	8.3%	24.4%	44.6%	13.7%	5.4%	3.6%
ウ_学校教育の場で(男性)	11.2%	25.9%	44.8%	6.9%	6.0%	5.2%
(女性)	6.5%	23.8%	55.4%	5.4%	4.2%	4.8%
エ_政治の場で(男性)	4.3%	16.4%	34.5%	25.0%	13.8%	6.0%
(女性)	1.2%	9.5%	42.3%	28.6%	15.5%	3.0%
オ_地域・社会活動の場で(男性)	6.0%	22.4%	43.1%	20.7%	4.3%	3.4%
(女性)	4.8%	19.6%	49.4%	16.7%	7.1%	2.4%
カ_法律や制度の面で(男性)	7.8%	13.8%	47.4%	19.0%	7.8%	4.3%
(女性)	2.4%	13.1%	47.0%	24.4%	10.7%	2.4%
キ_社会通念、慣習、しきたりなどで(男性)	6.0%	11.2%	38.8%	26.7%	13.8%	3.4%
(女性)	2.4%	9.5%	38.1%	28.6%	19.0%	2.4%
ク_社会全体で(男性)	4.3%	8.6%	50.0%	21.6%	11.2%	4.3%
(女性)	1.8%	10.1%	40.5%	31.0%	14.9%	1.8%

女性の能力活用について、男女ともに「ア\_家庭生活の中で」を除き、十分に活用されていると思う割合は、総じて低くなっている。

問13 職場・地域・学校・家庭などでのセクハラ、パワハラ、DVについて(複数可)



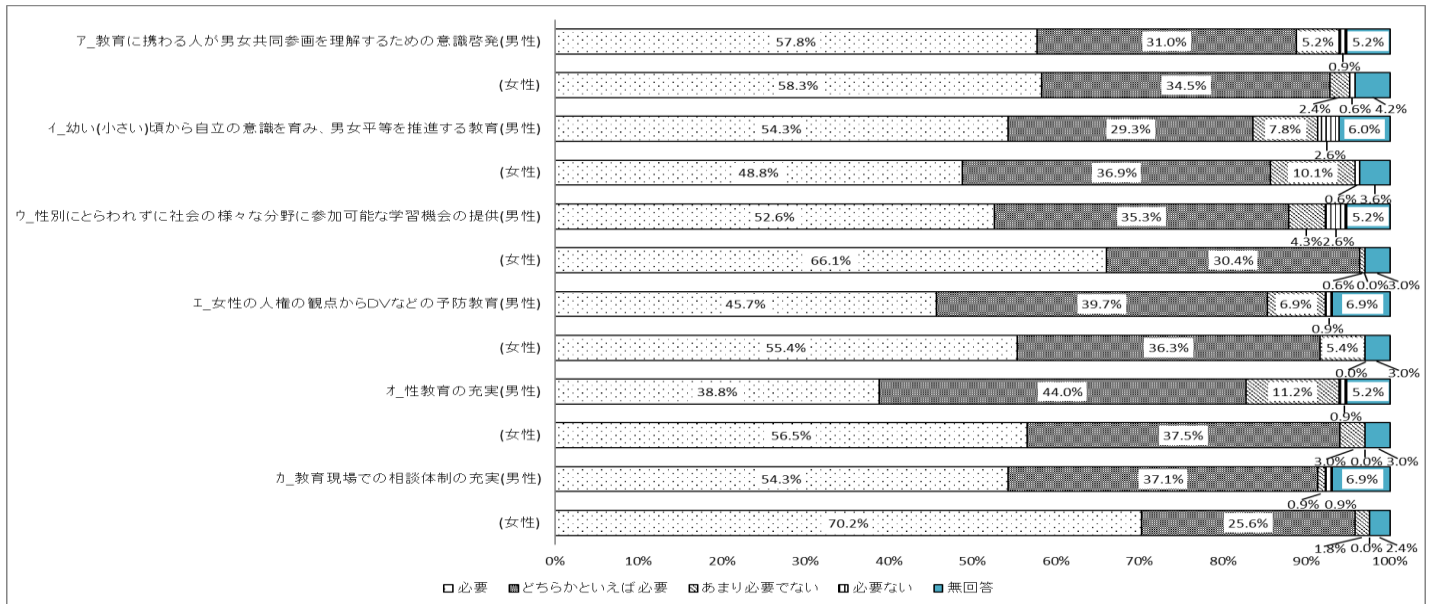
問13職場・地域・学校・家庭などでのハラスメント等

	該当	非該当
ア_セクハラを受けたことがある(男性)	1.7%	98.3%
(女性)	20.8%	79.2%
イ_パワハラを受けたことがある(男性)	24.1%	75.9%
(女性)	36.3%	63.7%
ウ_DVを受けたことがある(男性)	4.3%	95.7%
(女性)	13.1%	86.9%
エ_セクハラをしたことがある(男性)	4.3%	95.7%
(女性)	0.6%	99.4%
オ_パワハラをしたことがある(男性)	11.2%	88.8%
(女性)	1.2%	98.8%
カ_DVをしたことがある(男性)	5.2%	94.8%
(女性)	1.2%	98.8%
キ_セクハラを指摘されたことがある(男性)	2.6%	97.4%
(女性)	0.0%	100.0%
ク_パワハラを指摘されたことがある(男性)	4.3%	95.7%
(女性)	1.2%	98.8%
ケ_DVを指摘されたことがある(男性)	0.9%	99.1%
(女性)	0.6%	99.4%
ク_身近に見聞きしたことがある(男性)	37.1%	62.9%
(女性)	38.1%	61.9%
ク_身近な人から相談を受けたことがある(男性)	13.8%	86.2%
(女性)	22.0%	78.0%
ケ_自分の周りには受けた人はいないと思う(男性)	25.0%	75.0%
(女性)	19.6%	80.4%

職場・地域・学校・家庭などでのセクハラやパワハラ、DVを「㊥身近に見聞きしたことがある」という割合が、男性37.1%、女性38.1%あり、これらがごく身近に存在している問題であることがうかがえる。また、「㊦パワハラを受けたことがある」と回答した女性の割合が前回調査より8.1ポイント増え、「㊧パワハラをしたことがある」と回答した男性の割合も前回調査から9.3ポイント増えている。



問14 男女共同参画社会を実現するために学校や社会教育の場等でどのような取り組みが必要だと思いますか。(各項目1つ選択)

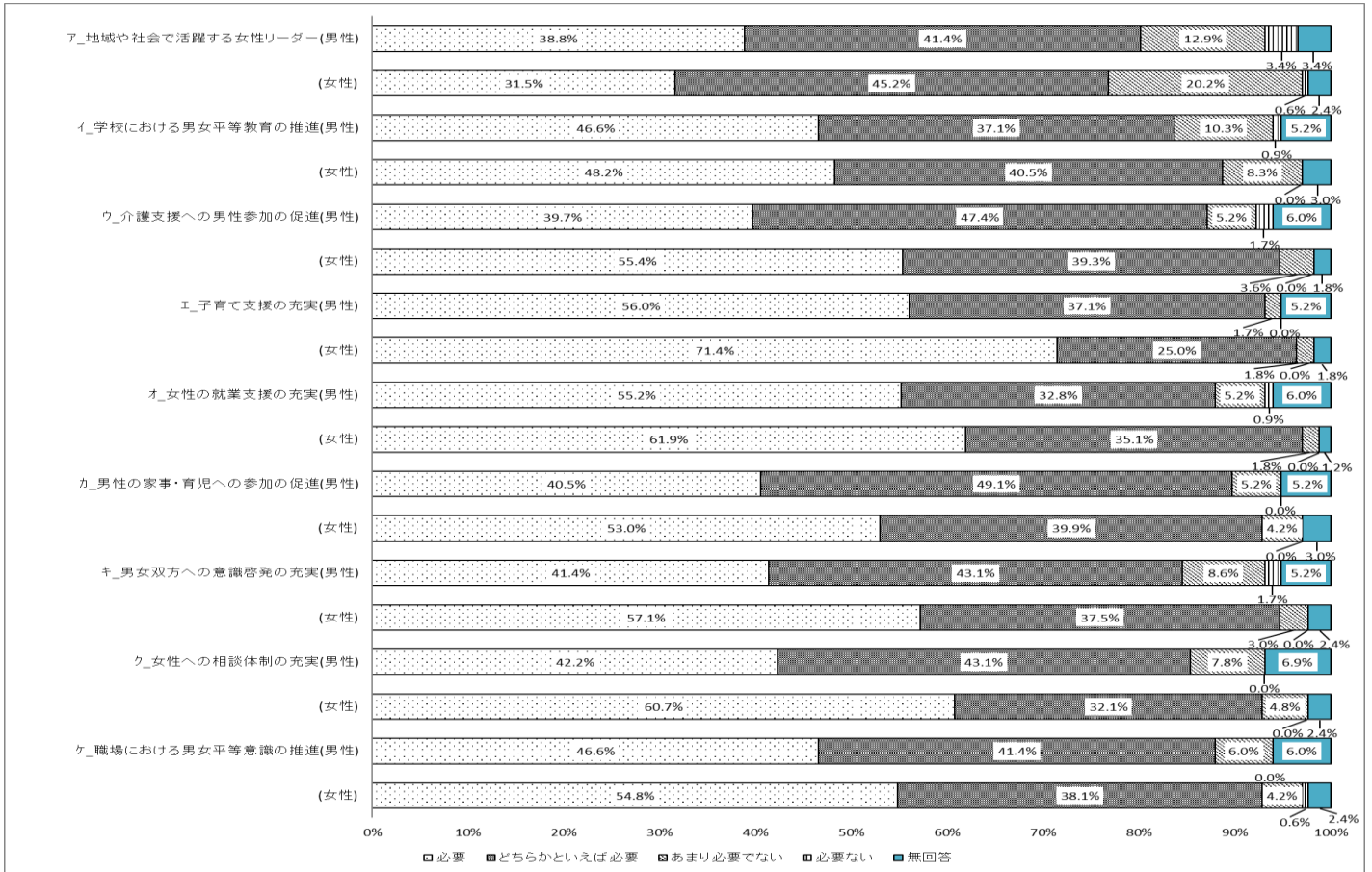


問14男女共同参画社会を実現するために学校や社会教育の場で必要な取組

	必要	どちらかといえば必要	あまり必要でない	必要ない	無回答
ア_教育に携わる人が男女共同参画を理解するための意識啓発(男性)	57.8%	31.0%	5.2%	0.9%	5.2%
(女性)	58.3%	34.5%	2.4%	0.6%	4.2%
イ_幼い(小さい)頃から自立の意識を育み、男女平等を推進する教育(男性)	54.3%	29.3%	7.8%	2.6%	6.0%
(女性)	48.8%	36.9%	10.1%	0.6%	3.6%
ウ_性別にとらわれずに社会の様々な分野に参加可能な学習機会の提供(男性)	52.6%	35.3%	4.3%	2.6%	5.2%
(女性)	66.1%	30.4%	0.6%	0.0%	3.0%
エ_女性の人権の観点からDVなどの予防教育(男性)	45.7%	39.7%	6.9%	0.9%	6.9%
(女性)	55.4%	36.3%	5.4%	0.0%	3.0%
オ_性教育の充実(男性)	38.8%	44.0%	11.2%	0.9%	5.2%
(女性)	56.5%	37.5%	3.0%	0.0%	3.0%
カ_教育現場での相談体制の充実(男性)	54.3%	37.1%	0.9%	0.9%	6.9%
(女性)	70.2%	25.6%	1.8%	0.0%	2.4%

男女共同参画社会を実現するために学校や社会教育の場でどのような取組みが必要かについて、男女ともに「㉑教育現場での相談体制の充実」、「㉒性別にとらわれず社会の様々な分野に参加可能な学習機会の提供」「㉓教育に携わる人が男女共同参画を理解するための意識啓発」が上位を占めている。

問15 今後、寒川町の男女共同参画社会の実現のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(各項目1つ選択)



問15 今後、寒川町の男女共同参画社会の実現のために、力を入れるべきこと

	必要	どちらかといえば必要	あまり必要でない	必要ない	無回答
ア_地域や社会で活躍する女性リーダー(男性)	38.8%	41.4%	12.9%	3.4%	3.4%
(女性)	31.5%	45.2%	20.2%	0.6%	2.4%
イ_学校における男女平等教育の推進(男性)	46.6%	37.1%	10.3%	0.9%	5.2%
(女性)	48.2%	40.5%	8.3%	0.0%	3.0%
ウ_介護支援への男性参加の促進(男性)	39.7%	47.4%	5.2%	1.7%	6.0%
(女性)	55.4%	39.3%	3.6%	0.0%	1.8%
エ_子育て支援の充実(男性)	56.0%	37.1%	1.7%	0.0%	5.2%
(女性)	71.4%	25.0%	1.8%	0.0%	1.8%
オ_女性の就業支援の充実(男性)	55.2%	32.8%	5.2%	0.9%	6.0%
(女性)	61.9%	35.1%	1.8%	0.0%	1.2%
カ_男性の家事・育児への参加の促進(男性)	40.5%	49.1%	5.2%	0.0%	5.2%
(女性)	53.0%	39.9%	4.2%	0.0%	3.0%
キ_男女双方への意識啓発の充実(男性)	41.4%	43.1%	8.6%	1.7%	5.2%
(女性)	57.1%	37.5%	3.0%	0.0%	2.4%
ク_女性への相談体制の充実(男性)	42.2%	43.1%	7.8%	0.0%	6.9%
(女性)	60.7%	32.1%	4.8%	0.0%	2.4%
ケ_職場における男女平等意識の推進(男性)	46.6%	41.4%	6.0%	0.0%	6.0%
(女性)	54.8%	38.1%	4.2%	0.6%	2.4%

今後、寒川町の男女共同参画社会の実現のために、どのようなことに力を入れるべきかについて、男女ともに「㊦子育て支援の充実」、「㊧女性の就業支援の充実」が上位を占めているが、男性が「㊨職場における男女平等意識の推進」を挙げているのに対し、女性は「㊩女性への相談体制の充実」を挙げている。



問16 男女共同参画社会の実現に向けての意見

番号	意見
1	昭和20年の終戦の頃は男女どころか女は男に従える時代でした。小学校に変わったのが国民学校3年生の時と記憶しております。昭和一桁生まれの人でしたから夫に仕えるのが普通でした。今は男女平等の時代になり平和で良いと思っております。
2	1.集計及び次期プランとしてのみでなく、町の事業として学校や企業へ強力に推進して頂きたい。2.このアンケートは良いことばかり書いてあり、理想である。実現する為には町を含めたトップ層の意識転換。利益第一を優先する企業の意識改革が重要。実現の難しい面を含んでいる。
3	男女平等と言いたいけれど、どうしても力仕事等は平等とはいかないと思う。
4	まだまだ男女共同参画社会とはほど遠いと思いますが、女性と男性では視点がだいぶ違うと思います。古くからの考えもあり、難しい事も多々あると思いますが、寒川町ががんばっている事が分かって良かったです。ありがとうございます。
5	子育て支援や介護支援は必要だと思うが、幼児教育無償化はやり方が違うと言うか、微妙です。助かりはしますが。正社員で育児休業を取れている人と辞めなければならなかった人との落差が大きすぎる。保育園も入りやすく、手当も付いて、随分優遇されていると思う。
6	仕事をする上で家事・育児など女性はとても忙しいです。例えば小さい子が熱を出した時、女性は仕事へ行けません。そのような時会社がどう対応していくか問題だと思います。
7	①男と女はそれぞれ役割が違います。②女性は結婚したら子育てに専念して欲しい。③女は家庭、男は仕事が原則です。④少子化の原因は女が結婚したら仕事を持つ事です。
8	幼稚園、保育園の充実
9	男性が変化するよう求められ、確かにハラスメント等は無くすべきですが、女性が主張しすぎたり男性を見下したりして良い訳では無い。男女が互いに敬意や礼儀を持つ事により、協力しやすくなるのでは。家事・育児・介護も大切な仕事で、お金を貰わずやっているのですから褒められるべきです。
10	男性も女性も解らないところで大変なものです。お互いに思いやりを持って生きてゆかねばと思います。道徳心が欠けている様に思います。教育はとっても大切です。
11	私の周りでは十分な性別に関わりなく個性と能力を発揮する事が出来ています。私は働いていないので、会社の中の事は分かりません。
12	町議員を男女半々にしたらいいと思います。
13	すごく難しいテーマで回答に悩みました。男女で意識しすぎるのも、かえってわざとらしく思ってしまう。すみません。上手くまとめられません。
14	私の職場では、子育てが一段落して復職した人、育休を取り2人の子供を育てながら働いている若い母親達が何人かいます。女性スタッフは2人を除き、13人が全てお母さんです。女性にとってはとても働きやすい環境だと思います。けれども賃金の問題やパワハラなど少なからず問題はあります。個人事業主の場合、本人は意識していない事が実はパワハラになることが多々あると思います。雇用主が知識が無い事も原因の一つだと思います。職場へのアンケートを行っていると思いますが、丁寧に聞き取りなどを行ったり、「こういうことはパワハラに当たる」とか、情報提供する必要があると考えます。
15	何事も論ずるよりも実行が必要。

番号	意見
16	なんでもかんでも男女平等と言う訳けでは無い。男は男の、女は女の立場を理解し生活していく事が必要。男女は同じ事を行うと言う事では無い。女性も社会に積極的に参画する事が必要だと思う。
17	最近男の人ばかり育児をしないとたくさん言われていますが、男女どちらももっと仕事や家庭について考えるべきだと思います。私は職場でパワハラ、セクハラをされて過去に2回ほど職業を変えています。それももっと考えていくべき問題だと思います。
18	難しい質問で迷う。
19	あまりよく分かりません。
20	私は妻からDVを受けているので男女共同参画社会等よくわからない。アンケートは女性の立場を重点的にしている為、よくわからない。
21	今までの社会通念、意識を変える事は非常に時間がかかり、個人の意識改革が必要だと思います。そのためにも啓発や学校での保護者を含めての教育が必要に思います。共同参画は社会だけではなく共同参画家庭という考え方もあるのではないのでしょうか。
22	男女共同参画社会の実現は昔から言われてきたが、それぞれのトップ(議員、町長、校長、自治会長等)の古い考え方が未だに根強くあるため、実現が進歩しないと思う。それぞれのトップの考えを変えない限りは実現は無理だと思う。
23	男女平等できれば良い事だと思います。でも生物学的に男女差があるので、人間として各々が優れた分野で出来る事をすれば良いのではないかと思います。
24	何か新しい事をやると税金の問題がでてくると思います。取り組みも大事だと思いますが、よく考えて利用しなければ無駄になります。見切り発車だけはしないで下さい。
25	日本には元々この国が永年培ってきた風土というものがある。何を血迷ったのかいきなり「男女共同参画社会の実現」など行政の施策としての土台が無に等しい現実では、何百年早いと言わざるを得ない。
26	男女共同、理想ですが、男女にも個体差があります。ひとりの人として、考えるべき事だと思います。
27	もう少し若ければ積極的に関わりたいが、男女平等の意識は持った方が良いと思います。
28	そんな社会が来るとは思えません。別の件ですが、コミュニティバスの色なんかならないですか?夕方お年寄りが乗っているのを見ると「一体どこへ連れて行こうとしているのか…」と不気味な気さえます。茶色に変わってから一度も利用してません。
29	男女協力して住みやすい社会になって欲しい。
30	この世に生まれ男女対等に仕事も生活も充実した人生が送れますように。
31	男女共同は無理と思っている。まず女性は力仕事が無理でも男性よりデリケート力(りよく)はある。身体の作りが生まれつき違うのだから協力し合うしかない(思いやり)
32	子育て支援が無いと何も始まらない。急な体調不良にも対応してくれるような。女性は一歩下がってしまう。

番号	意見
33	全ての男女が幸せになる為に尊重し合い、「こうしたい」「こうなりたい」など共有し合える人達ばかりの町になれば良いと思う。男性か女性のどちらかがリーダーになればいい。という問題ではない。他人の幸せを喜べる人達が多ければ、皆が幸せになり、良い町になると思う
34	少しずつ変化している様ですが。
35	男女同権の考えが多分に女性側寄りの強調感があると思う。男女の協調意識が必要と思う。特に男性側の考え方が女性を下げすむ傾向があると思う。
36	一番は意識改革が必要と思います。男性・女性の考え方を理解する事も必要では。
37	女性ばかりに家事・育児・仕事を押しつけない事。
38	男女ではなく、個人としてのアンケートをして欲しい。
39	私一人が理解するだけでなく、皆ひとりひとりが理解し合わないとは解決できない問題かと思っています。私も年代、性別等関係なく皆がより良く生活出来る社会になる事を願っています。
40	老若男女問わず皆が理解しない事には何をやっても進みずらいと思います。
41	どうゆうふうに行動を起こして良いか、理解しやすい様に役場で広報だけでなく積極的にアイデアを取り入れてほしい。
42	テレビで良く耳にしますが、男性の育休が必要だと思います。子育ては女性だけの仕事ではないので、もっと男性の育休に耳を傾けて下さい。
43	男女平等も難しいと思います。随分昔と比べ男性は協力しているように見えます。その反面、上手く使って女性が楽しんでいるようにも見えます。お互い男性が出来る、女性なら出来る事を上手く活かしてもらいたいです。
44	私個人は子供がいない為学校教育については理想を書かせて頂きました。
45	問8について、無回答。「男性も」というのはおかしい。独り者や父子家庭の場合と、既婚者は違う。
46	子供の事を第一に考えて行動して欲しい。
47	「男女が同じように働く」ことは正直難しいと思います。男女の違いだけではなく、体力や特性も違う為、向いている、向いていないがある事をそれぞれが理解でき、お互いを尊重し合いながら社会参加出来る事が理想です。男性の育休取得はまだまだですし、保育園や学校からの急な呼び出し等で対応する事も少ないように思います。本人や周囲の理解を急に変える事は難しいと思いますが、少しずつでも良くなっていけばよいかとも思います。何にせよ、健康で楽しく長く働いていける環境が大切だと考えます。
48	性別に関係なく才能のある人は認めるべきだと思います。
49	時代と共に職場や社会での男女の区別や不平等は減少してきているように思えます。家庭においても若い世代の人達は家事を分担するなど男性も当たり前のように協力しています。お互いにひとりの人として認め合う、尊重する事が大切と考えます。その為には教育の充実、子育ての環境、子どもへの愛情がとても大切なことだと思います。

番号	意見
49	時代と共に職場や社会での男女の区別や不平等は減少してきているように思えます。家庭においても若い世代の人達は家事を分担するなど男性も当たり前のように協力しています。お互いにひとりの人として認め合う、尊重する事が大切と考えます。その為には教育の充実、子育ての環境、子どもへの愛情がとても大切なことだと思います。
50	すべて優しさが必要だと思います。
51	頭の中では理解できていても、やはり昔からの日本の風習などがある為、女性が担う事も多々あると思う。しかし、現代ではだいぶ平等になっていると思うが、若い方達の間違った認識として、平等をはき違えてはならないと思う。権利ばかりの主張は見苦しいものです。権利を主張するからには、それを支えてくれる相手と思う気持ちが養えたらと願います。男女問わず奥ゆかしく、控えめに…これは日本人の良いところでもあり、その気持ちを忘れない教育が必要。そのためには、行政主導で周知、啓発もし、学校や家庭が一体となることが大切だと思っています。頑張ってください。またよろしく願い致します。
52	問5について、共働きしないと生きて行けない給与の低さがある。問6の(カ)女性自身の自覚と意欲について、とっくにあると思うので④必要ない。問7の(カ)再就職のための研修や職業訓練の充実について、④必要ない。理由として実力のある女性はすでに多い。社会インフラがダメ。問16意見:シルバー民主主義をしている限り少子化は改善できないし、日本は終わる。移民のように女性が一日、5~6時間働けるような社会にすべき。
53	その時々で参画できるようにする事が望ましい。
54	男女平等と言われてますが、現実的にはまだ男性優位だと感じます。教育現場や地域で取り組んでももらいたいと思います。
55	何でもかんでも男女平等と言っても生まれつきの体力の差や事情があります。
56	20歳~55歳まで務めた職場(公務員で5回転勤)では、必ず各職場にパワハラはありました。私個人が被害に合ったり、他人が受けているのを見聞きしたり、人間関係の中では、程度の差こそあれ、常に起こりうるものだと思います。やはり、小さい時の育ち方により、歪んだ性格になるのでしょうか。本当に人の痛みがわかる人になるのは難しいのでしょうかね。教育の中で少しずつでも良い方向へ男女隔てなくお互いを理解してゆけると良いですね。
57	男女問わず誰もが社会で活躍、家庭生活の充実が必要だと思う。しかし現実には、女性は出産によって仕事を休む事が必要な為、今日の社会はこの現実を受け入れる事が困難だと思う。(職場の理解、男性の考え方、保育のあり方など)どうしても女性の方が出産・育児と家庭の仕事を行うことが多くなるため、社会復帰は厳しくなる。世の中の意識が変わらない限り、男女共同、セクハラやパワハラも無くならないし、女性の社会進出は、はっきり言って無理だと思う。
58	小さい頃から男女平等を推進する教育というものがやはり重要であると思う。
59	能力のある人は女性も活躍して欲しい。
60	男女平等と言いながらも会社、世間は女性に甘すぎる部分が多くある。そこを何とかしないと難しい。
61	男女に関わらず向き不向き能力の違いがあるので、それぞれが向いている場面で活躍できる社会が良いと思う。

番号	意見
62	会社…休むと復職した時に時の流れについていくのが大変(浦島太郎状態)、学校等…子供の事では協力したいが、フルタイムでは今のPTA制度は苦痛でしかない。毎年嫌な思いをする。「出来ない」と断るのも辛く、ストレス。出来ないと言っても、くじで当たったら役員をやってもらおうと脅された。女性も働く人が増えたので、制度を変えるべきだと思う。
63	がんばって下さい。協力出来る事があつたら応援したいです。
64	問10の現実、さも現実と対比すると現実の問題があるような誘導設問では?問15(ク)について、町職員がやるのですか?プロを専任しないと無理かも。(ケ)町役場以外ではできない。
65	全ての人の自由が守られる社会が大切と思う。しかしその為に周りの人が不自由になるような事があるのなら、自由が保障される社会とは言えない。特に弱者達が追いやられる様な事が無いように、未来を担う子供達に希望が与えられるよう、その親たちが健全に過ごせるようなあり方を見いださねばと思う。教育、それを支える教師の仕事量の多さ(書類作成などが多く長時間勤務になることも聞きます。そんな状態では子供たちに笑顔を向けることが不可能なのでは?)の改善が必要。
66	男女とも働いたり動く事が困難となれば、男も女も関係ないと考えます。一人の人が労働、生活する上で生きやすい社会になればと思います。実現するのが難しいとしても、そういう考えを持ったり、行動に起こす事が必要だと思います。
67	職場で女性がゴミの収集や果実の皮むきをさせられます。(年配)の男性は女性の前で下ネタを話す人がいるが、目上の人なので注意が出来ない。会社で研修が無いので、いつまで経っても改善されません。「こんな事はセハラ・パワハラです」のチラシを置いてほしい。
68	男女平等の時代。女性も仕事を持つならば男性と対等に向き合い意見も言い合える責任感の強い立場に立って貰いたい。地域で活躍するリーダーが女性だと、どんな行事も人出の賑わうものとなるのでは?リーダー育成は大きいでしょう。必要!正しい指摘を受け入れられるリーダーが真のリーダーだと思う。
69	制度の形骸的傾向が現状に見られる。表面では男女平等とか雇用社会均等と云うが、本来、女性には出産という男性には出来ない絶対存在優位性があり、この事実を基本にした平等、男性は生命、経済を保全し将来ある子供達が希望の持てる世界環境を造る義務を持ち、女性は子供達すべての命を大切にす情操育成の義務を中心に社会構築が必須に思う。
70	啓発と仕組み作りを進める事と、すでにある各休暇などは職場への義務履行を強く勧める介入がなくては前進は無く、足踏みのままだと思う。
71	実現に向けて社会全体が理解と協力すべきであるが、個人の価値観、生き方の違い(元々持っている男女の役割の違い)等も尊重すべき
72	女性が働き続ける為にもやはり、環境整備が整っていないと難しい。大きな企業などは、育児休暇、短時間勤務、フレックスなどあるが…。学童保育などの充実も必要。
73	男女共同なかなか大変なことです。
74	現在83歳。今まだ仕事中的●来始のため返答出来かねる所も有り。家庭での男性の立場についての回答は出来ない。いまだに働き続けています。
75	男女平等という意識は必要だと思うが、男女全てにおいて平等というのは役割や能力に差はあると思っている。しかし、経済的な理由で何かを諦めなければならぬ現実があり、家庭を優先させるなら人並みの稼ぎは期待出来ない我が家である。



番号	意見
76	会社に制度があってもスタッフ間で理解がない。
77	まだまだ日本の社会では、女性軽視が多く、改善が大いに必要。特に政治の場面では、外国に比べて非常に遅れていると思われる。
78	男女平等社会における女性への負担増加を懸念している。男女及び老若男女が働く負担増加への不安→収入増に伴い税金の増税から生活苦への不安。本来女性として守られてきた事(人権・権利)の減少と消滅。働く時間の増大による出生率の減少(結婚)。女性の人口減少を移民でまかなうことに反対。産めよ、増やせよ。で100年後に明るい未来を望む。この事を無視して推進はありえない。
79	小さな事でも自分の出来る事から継続して行く事が大切。
80	出産、育児、不妊治療、介護などによる休職や時短勤務、早退などへ理解ある会社、柔軟に対応してくれる社会になって欲しいです。
81	現在3才の子供を育てつつ週5日仕事をしています。仕事をしたいけど、子供の預け先が無い。預けられる時間も短く、仕事先の望む形で出勤できない。土日は保育施設が休園というのが現状で、とても働くのに適した環境ではないと、驚かされています。もちろん夫の協力は必要ですし、育児休業等は取れたら良いとは思いますが、収入は減る、職場に迷惑がかかるとデメリットが大きすぎて不安です。子育てしながら働く事が当たり前の今、社会の対応が追いついてなさ過ぎて残念少しでも女性も男性も働きやすく、楽しいと思える職場環境が増えたら素敵だなと思います。
82	幼少期からの家庭環境が子供の思想・思考を左右すると思いますので、両親が協力し合っていて、男尊女卑の様な環境でなければ、男女共同参画社会への取り組みに柔軟に対応できるのではないかと思います。そうでなければ、小学校等で早くから授業に取り入れるようにし、皆が知って学んでいくようにしたら、大人になってから自然に考えや行動ができるようになると思います。
83	男女雇用機会均等法が制定されてから、30年近く経ちますが、まだまだ差別は感じられます。ただ、体力的な事に関しては、やはり同等は難しいと感じていますが、子育てに関してはもっと育児休暇など男の人が取得するのが当然な世の中になって欲しいと思います。
84	女性がもう少し働きやすい職場があれば良い。
85	現在共働きで、小学2年と今年生まれる子供がいます。私は産休・育休を取得しますが、出産の際、どうしても上の子の学校がある為、里帰りが出来ません。主人に入院中休みを取って欲しかったのですが、サービス業なので休みが取りにくいのが現状です。ファミサポ等の利用も考えましたが、主人の勤務は、早朝から夜遅い帰宅になる事もあり、諦めました。また、休みが取れたとしても無給になり、厳しい現状です。国で、男性も育休を勧めていく様な環境になって欲しいです。
87	今や人生100年時代と言われる様になり、人口は減り納める年金も受け取る額も減っていくばかりでしょう。100年生きるという事は働ける限り働いていかなければ、日本の財政は成り立たなくなるでしょう。私は農家に生まれ育ちました。農家は定年退職がありません。男性も女性も働ける時まで現役で働くのは当たり前でした。子供は年寄りが面倒をみるというのがほとんどです。今の時代、核家族が多く年寄りに頼れない代わりに男性、女性と役割を決めてしまわないで、基本的にお互い協力して働くという姿勢にもっていかなければ、活躍したくてもできないし、才能も発揮できないと思います。具体的な案は持っていませんが、日本人がこの先、生き残るためにはそうならざるを得ないでしょう。
88	問5は女性の考えの意志で決める。問6は女性の働きやすい環境に。問7は男女共、働きやすい社会環境にする。

番号	意見
89	女性の役割、男性の役割がそれぞれあるとは思いますが。女性にしか、男性にしか取り組む事のできない仕事(業種)もあるのは現実。互いに認め合い、円滑に行う仕事や社会であってほしいと願います。
90	女性だけを優遇するような活動は、(女性限定の相談室、サービス等)男女共同参画の意志に反すると思うので、(私も女性であるが)そういう活動には意識的に参加しないです。女性の支援は、男性を排除する事ではないと思うので、「女性限定」といった不平等な活動は、政治・地方公共団体・教育においてすべきではないと思う。
91	性別に関係なく仕事と家庭の役割を共に行う事が必要だと思えます。家事・育児は女性だけが行うものではありません。男性が「手伝う」ではなく「共に行う」意識を持つ必要があります。性別・家庭環境が就業やライフイベントを選ぶ際の足かせにならないよう、社会全体の理解が深まることを望んでいます。
92	若い方達は、男女差よりも個々の意識のほうが強くなりつつあると思われるが、自分の年齢より上の年代は、なかなか意識は変えられないのではないかと。何かから手をつけたら良いか正直なところわからない。
93	現在だいぶ男女共同参画社会に向かってとても良くなってきていると思えますが、その方向にもっと突き進めていけたら、素晴らしい世の中になっていくと思います。各個人がそういう意識を持って生活していけたら素晴らしいと思います。
94	女性の活躍する場面はたくさんあると思えます。寒川町がそういう環境、会社があるかどうかであり、設問自体が女性を守るべき的な感じ。首都はもっとやれる環境があり、女性も生き生きしている。女性だけでなく、男性も(若者)も働きやすい環境。会社ももっとあると嬉しい。
95	子供が小さい内はどうしても仕事をセーブせざるを得ない状況。例え保育所に入れたとしても、子供に淋しい思いをさせるのではないかと葛藤もある。子連れ出勤できる職場が増えたり、働き方の多様化が進めば良いと思えます。
96	何をもちて社会参加かは人それぞれだと思うけれど、参加したい!と思った時に、男だから女だから…という理由が出てしまうのは少し悲しいと思う。
97	男性の立場、女性の立場、お互いが良く理解してより良い社会を計画されると良いのでは。
98	社会体制と認識が変わらなければ難しいと思えます。
99	全てにおいて男女の役割分担を考えなければ、身体的な問題が発生する。思考における面は平等に出来ると思う。子育て、介護に考慮必要。
100	色々な仕組みを作っても、それを使う側の意識が変わらないと本質的な事は何も変わらない。社会も同様。子供ができたら、介護が必要になったら、主力になるのは女性、と個人も社会(会社)も思っている限りは共同参画は実現しないと思う。よって共同参画社会への改革の肝は意識改革と思う。その上で行政としてはどのようなビジョンでどのようなアプローチを行うのか、よく考えて実行していただきたい。
101	「平等」かどうかよりも、お互いが(男女に限らず)認め合える社会になっていければ良いと思う。男性にも女性にも、向き、不向き、仕方がない事(出産等)なかなか平等というのは難しい。協力し合う。その為のコミュニケーションなど、自分はどうあるべきか、小さい頃からの教育、環境が大事なのだと思えます。
102	素晴らしいプランだが、女性も男性も子供ができたら『親』としての責任を忘れず、子供の心(気持ち)に耳を傾け、育児をしてほしい 子育て支援の充実＝子育てしない親が増えてしまう懸念もある。仕事のない時は子供と過ごすことを前提にしてほしい